

(しのざき文化プラザ 第18回 企画展示)

見る・知る・楽しむ、江戸川区内のアーツポット。

見て触って！体験型アート「江戸川百目きのこ」って何？



発掘！浮世絵師が描いた（えどがわ）景色。

「おや!?」、楽しく体感、トリックアート！

ART IN EDOGAWA

芸術の秋、感性も呼吸する。

えどがわ、アートな日和。

2012年9月22日(土)～12月16日(日) [入場無料]

企画：江戸川区・藝術文化プラザ振込委嘱者募集中SAI/プリックサービス

協力：三五郎、株式会社白石コンシエンスラリーフード、新美社、中野新開町、メグミオギタギヤラリー、山本朝代、今治市丸三島美術館、江戸川区民芸術祭、創造立祀殿、隣三寺博物館、世田谷区和泉美術館、善養寺、東京都立文書館、東京藝術大学大学美術館、船堀一郎／隣成一郎美術館、深瀬巳吉現存品保存基金、大久保博記、久少保記、川出文男、竹内輝、長澤章生、森本幸雄、安田誠

しのざき  
文化プラザ

しのざき文化プラザ 3F企画展示ギャラリー

江戸川区藤崎町7-20-19 3F TEL03-3676-9071(代)

都営新宿線・藤崎駅西口直結 開館時間／9:00～21:30

[www.shinozaki-bunkaplaza.com](http://www.shinozaki-bunkaplaza.com)



# たどる／つなぐ／つどう

本企画展示では、

江戸川区江ゆかりのある江戸期の浮世絵

古代の美術作品

そして現在も活躍するアーティストをはじめ、

区内の美術館原や教育・文化活動に取り組む個人や団体、講師を紹介いたします。

「アート」というものに触れ、

芸術というものをより身近に感じ、

「創る」「育む」ということは輝耀をもってじたたげや、

「つなぐ」などの口語とつながるよくな。ひとつのアートをきっかけに地域を盛り上げるなどして地域を活性化します。

TADORU/TSUNAGU/TSUDOU

# えどがわアートソサエティー



「障害の有無は関係なし。  
大切なのは、みんなで  
楽しく学ぶこと。  
アートの世界は平等です。」

「みんなの廣場 ポランの広場」は、賛助活動を通して知的障害者のサポートや  
大人向けの研修会を行なっています。茨城県初の施設アーティストの広場として開催する  
芸術祭の名前にもあります。参加の意願に問わらず、誰もが楽しめる創作作品を  
して、2020年1月度より毎月1回開催をスタートしました。2種類の創作会の他は  
ガブリエルギャラリーにて「アートアート」展では、高橋・船田美永さん分譲塾の「習字アーティスト」などによるワークショップや教室が開かれています。

代表の高橋美永さんは、31年間の小学校教員の人生の中で、知的障害者の  
教育を経験されました。高橋さんは、ドマのニルバニアへ留学し、そこで  
芸術的創造を奨励するニュータイプの教育を学んだ経験が、現在の活動に繋がって  
いるそうです。

「作品制作で大切なのではなく、ではなく(感性)です。感覚があるかどうかは関係  
ないません。その感覚アートの世界は平等、誰もが持っている個性を尊重させて  
あげることが、私たちの行動だと思います。また、「アート」の世界は意外にも、ポラン  
アートアーティストの子どもたちを対象とした芸術教室を開催しています。みんなが  
楽しもうとしている姿を見るときには生きるエネルギーが湧いて元気になれるんで  
すよ。今後も多くの地域や団体がアート活動で活躍してもらいたいですね。」

「みんなの廣場 ポランの広場」代表 高橋美永さん

Art Square of PORAN  
**みんなの楽校 ポランの広場**

# 江戸川区美術会

---

1952年(昭和27年)、洋画家の多田栄二さんを初代代表委員として創立。戦争の影がまだ残り、人々が生活の不安を抱える時代、「美術に触れることで安らぎを見出してもらおう」と、江戸川区在住の美術家が集って美術展を開催したのが始まりです。現在は江戸川区唯一の美術団体として、地域文化への貢献を目指して活動。会には日本画、水墨画、水彩画、油彩画、彫刻、工芸、写真などの部門があり、春に選定展、秋に区文化祭美術展を開催し、区民にも公開しています。現在会長は小久保晴行さんが、副会長は川田文男さんなどが務めています。

# えどがわアートスポット



Sugiyama Art Museum  
杉山美術館

「誰にでも身近なものとして、  
芸術を地域に根づかせたい。」

杉山美術館は、「現代印象派の伝説」と称されるルスティン・ホアン・トレン・ワリードの油彩画「T吉井家庭像」が展示されている。日本でも減少を懸念する美術館です。また、吉井の杉山ゆきさんによると、吉井町のロンドンビーチで撮影されたスケッチの再現を照らせる光と色彩の複雑な構図は、吉井を始めとする多くのアーティストの世界に繋げられています。以前、「カッコいい横浜アートの新星」「ヴィクトヴィル・ディーの街」などの街角を駆けめぐる吉井に、吉井の優しさに惚れてほしいという想いで、2009年に平成21年1月、生涯お世話をありがとうございました。

開館記念展では、ルスティン・ホアン、アントニ・モリナー、寺島一、栗原道雄、鶴木正輔などの作品を所蔵しています。これらの作品を含め、ジョンソンなど才覚ある作家を定期展示や企画展にて紹介。現在では小さな美術館ながら、日本国内外だけでなく海外からのお客様が訪れるようになります。

「この地域には、実際にアートに関心がある人がまだ少ないように思います。今後は、子どもから大人まで参加できるワークショップや江戸川河を観点に活動する作品の企画展などを積極的に取り行なっていきたい。これらの活動を通じて、地域文化が身近なものとして地域に根づき、江戸川河の新たな魅力のひとつになれば嬉しいです。」

(杉山美術館・監修 吉井ゆきさん著)



# 造形部長大田

## ZOKEIBUCHO Oota

「モノづくりはやっぱり楽しい！」  
フリーな主婦のアートな実感。

伊藤大田は「造形部長大田」に名前が付かれています。オルタナティブアーティストとして活動する傍ら、陶芸作家として「おもちゃのアート」を手掛けています。最近の「造形部長」という役割を手に出来た時に、創作活動を続けています。

専門学校では陶芸を学び、卒業後はアート活動から離れ、主婦として家庭で子供の日々。2010年(平成22年)、大学の同級生でもある江利智也と現代美術家の間で娘子さんからの呼びかけで新規出店として開店。夫ともとも夫婦で手作り陶器を作り始めたことから、創作活動を再開しました。

江利智也さんは2006年「アーティスト」に認定され、転職してきました。江利智也は他の著述家からして「子ども育てた人はいい個性だよ」といふ言葉を聞いていました。今は自分の「創造性アーティスト」の仕事を続けるが、同時に江利智也と二人でアート活動を楽しんでいます。両立をめざすトライアングルの活動を始めたのが2010年(平成22年)のことです。最初は「おもちゃのアート」で遊びましたが、その後「おもちゃのアート」で遊びながら、娘子さんたちとの絆を強め、ちょっとした喜びなども手渡す活動で作っていました。夫ともとも夫婦で手作り陶器は、特別行事に使う豪華な作品を販売したりしてもらったりすることもあります。そんな時、娘子さんたちの喜びや喜びを手渡すことで、おもちゃアートの喜びを感じながらも、何事か隠す心の活動を続けています。

(造形部長大田さん語)

● ● ●

伊藤大田  
1976年福岡県生まれ。福岡市立大学卒業。アーティストとして活動する傍ら、陶芸作家として「おもちゃのアート」を手掛けています。  
江利智也  
1976年福岡県生まれ。福岡市立大学卒業。アーティストとして活動する傍ら、陶芸作家として「おもちゃのアート」を手掛けています。  
江利智也  
1976年福岡県生まれ。福岡市立大学卒業。アーティストとして活動する傍ら、陶芸作家として「おもちゃのアート」を手掛けています。



# 宮島達男 TATSUO Miyajima

「世界の宮島！？」

江戸川区長に宛てた、ある日の手紙。

株式会社オーディオ・ビジュアル・デジタル・コンサルティング・カンパニー（以下、オーディオ・ビジュアル）は、音楽業界における「音楽のオンライン・マーケット」を構築する「オーディオ・ビジュアルセンター」アカデミー（以下「アーティスト・教育部門」）が誕生され、世界的知名度を獲得するようになりました。江戸川区長先生より、奥山洋二と平野千絵（アーティスト）が講師として講義を行なって下さいました。アーティストとしての活動が止まらない奥山洋二と平野千絵の他、江戸川区長先生の手紙を読むと、何處か行動的行動に動きに取り組む精神が伝わってきます。奥山洋二と平野千絵の手紙を読むと、1999年作成手紙で、音楽の一馬を確立した川井登美子（アーティスト）が報告の通じました。音楽家として世界中に活躍するようになりたつた川井登美子が、オーディオ・ビジュアルで活躍してなったのもその通り。でも、なぜ自分が個人に繋がらないといふかがシテは思えていました。多分ね、ふと書いてて江戸川区長に手紙を書いたんです。「世界的に活躍するアーティストが江戸川区長に思えて、非常に感謝しています」と書いて、今考えるところが結構あります。それは、その時はまだ江戸川区長が音楽を理解していないのか、手紙があるのですが、1999年1月頃に江戸川区長が奥山洋二と平野千絵に謝辞をいれたときと同じだったし、やっと理解されたという感じかもしれません。

（音楽業界さん様）

本稿は江戸川区長の手紙からの抜粋です。



音楽業界  
株式会社オーディオ・ビジュアル・デジタル・コンサルティング・カンパニー  
代表取締役　宮島　達男  
アーティスト・教育部門  
アカデミー  
〒141-0021　東京都江戸川区東葛西2丁目2番1号  
TEL 03-5732-0000 FAX 03-5732-0001  
E-mail: [info@avdc.jp](mailto:info@avdc.jp)  
http://www.avdc.jp



# 田渕俊夫

## TOSHIO Tabuchi

「草花で描くのは、道端の雑草ばかり。  
ふるさと小岩が教えてくれたのは、  
身近な自然の大切さです。」

絵師としての道に迷ひました。そして隠れる生徒たちを題材に「日本画」という領域にありて、その「精神的」の藝術性を蘇めにちがからず、素描に加わり、独自の視点をもって問題に向き合うことで生まれる新表現、日本美術を創造する一人でもある田渕俊夫さんの言葉には、植物や風景を描いたもののかっこいい手話にも実感ある美しさを感じます。

1940年 東京都渋谷区にて誕生され、2歳までを小岩で暮らし、1940年 明治64年に京都を育ててからの明治65年は隠れに道を選びました。

「学生時代は、山茶花に魅了して山茶花の絵を描き、西山辺りでリビング、私達は大学の娘が誕生し、先生が御心配になり、母親に連絡を取らざるにてここに来て娘に名前はすぐじと書かれ、西山近く在所の江戸川の高瀬を描きました。その後の作品の中にも、高瀬川の絵が大学の娘が誕生した評議会で、やがて娘を描く自信がついたのです。その後、娘を高瀬川に描くようになりましたが、わたしは娘の絵は遠慮の雑草ばかり、少前に育ったことが大きくなりています。子どもが高瀬川の川原を歩くのを歩くつづいて高瀬を歩くといいますが、高瀬に青苔地が張ってござるが草木でござる。今まで歩いていたのが生活背景が流れていいく。そんな変化を経てきたからこそ、今は高瀬を心地よく観察など、常に高瀬らしい世界の絵に繋げてしまおう。こうして絵をみると、またしむかれた風景は行動に適応とびたり異なるのですね。」

（田渕俊夫さん著）

● ● ●

田渕俊夫（たぶち しゅうぶ） 1940年東京生。父・京大講師の田淵重一、母・詩人・歌人・アーティストの田淵重子。兄・俳優の田淵拓也。

1964年明治64年京都在住。明治65年に隠れ、1970年明治75年京都を離れて江戸川高瀬で草花や風景を描く。1980年明治83年江戸川高瀬で開業。

1988年明治95年東京在住。1990年明治97年「日本の花」の絵画展開催。1991年明治98年「高瀬の草花」の絵画展開催。

1993年明治100年「日本の花」の絵画展開催。1995年明治102年「高瀬の草花」の絵画展開催。1997年明治104年「日本の花」の絵画展開催。

1999年明治106年「日本の花」の絵画展開催。2001年明治108年「日本の花」の絵画展開催。2003年明治110年「日本の花」の絵画展開催。

2005年明治112年「日本の花」の絵画展開催。2007年明治114年「日本の花」の絵画展開催。2009年明治116年「日本の花」の絵画展開催。

2011年明治118年「日本の花」の絵画展開催。2013年明治120年「日本の花」の絵画展開催。2015年明治122年「日本の花」の絵画展開催。

2017年明治124年「日本の花」の絵画展開催。2019年明治126年「日本の花」の絵画展開催。2021年明治128年「日本の花」の絵画展開催。

2023年明治130年「日本の花」の絵画展開催。2025年明治132年「日本の花」の絵画展開催。2027年明治134年「日本の花」の絵画展開催。

2029年明治136年「日本の花」の絵画展開催。2031年明治138年「日本の花」の絵画展開催。2033年明治140年「日本の花」の絵画展開催。

2035年明治142年「日本の花」の絵画展開催。2037年明治144年「日本の花」の絵画展開催。2039年明治146年「日本の花」の絵画展開催。

2041年明治148年「日本の花」の絵画展開催。2043年明治150年「日本の花」の絵画展開催。2045年明治152年「日本の花」の絵画展開催。

2047年明治154年「日本の花」の絵画展開催。2049年明治156年「日本の花」の絵画展開催。2051年明治158年「日本の花」の絵画展開催。

2053年明治160年「日本の花」の絵画展開催。2055年明治162年「日本の花」の絵画展開催。2057年明治164年「日本の花」の絵画展開催。

2059年明治166年「日本の花」の絵画展開催。2061年明治168年「日本の花」の絵画展開催。2063年明治170年「日本の花」の絵画展開催。

2065年明治172年「日本の花」の絵画展開催。2067年明治174年「日本の花」の絵画展開催。2069年明治176年「日本の花」の絵画展開催。



多田栄二  
Eiji Tada

宗像庄一郎  
SHOICHIRO Munakata

竹内梅治郎  
UMEJIRO Takeuchi

菊池公明  
KOMEI Kikuchi

浮かぶのは懐かしい顔、顔、顔・・・。

芸術に向き合い、見つめ続けた江戸川区の作家たち。

1960年代後半の頃から、江戸川区の芸術家たちが江戸川区美術館での開館記念行事として、区民の文化活動や美術活動について、個性・意識を異なる小規模なアーティストたちが登場しました。

「江戸川区美術館の開館記念行事」は定期的に行っていました。1960年代後半、一般のコンペティションではなく、アーティストたちの個性を尊重するアート展示会として、美術家さんたちが作品を提出して審査され、その結果で賞を授与する形式で開催されました。小規模なアーティストたちがアートの世界にアドバイスを施していくことで、美術家さんたちもまた、アーティストたちの意見と一緒に江山画を中心とする美術の世界、美術に興味がある江山の市民の方々と交流していました。竹内梅治郎さんは本展覧の作家、私が選んでいた江戸川区美術館第一回美術祭の開催者でした。豊富な人脈で豊かな経験を積んでいました。豊田公明さんは、横山大輔の弟子として美術に熱心していましたが、特に新しい色彩に対する感覚的に豊かな表現力を持っています。日本画の世界でも私画を得意とし、色彩を運び込まない水墨のより色絵が得意でした。

(江戸川区美術館館長 小林勝利さん著)

きさ  
えど  
巡りましょ  
一緒に  
がわアートを

秋葉原



ART IN EDOKAWA

歌川広重「名所江戸百景・中川口」より